

はじめに

本事例集には、言語活動に関する授業事例について、生活支援技術(医療的ケア)3事例、こころとからだの理解8事例をまとめ、授業の様子をDVDに収録しています。いずれも、活動性の高い授業を展開するために、活動を分節化して、展開を考えています。

言語活動の充実により、基礎的・基本的な知識の習得を図り、思考力、判断力、表現力等を育むことを目指しています。次期学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び、すなわちアクティブラーニングの視点からの学びをいかに実現するかが重要である」と示されています。事例集の作成に当たってもこの視点を重視しています。また、言語活動の質を高めるために、「学び方を学べる」授業となるよう留意しています。

つぎに、言語活動の充実のために留意している事柄をまとめます。

- ① 基礎的な知識を効率よく学べるようまとめ、教員の説明の時間を減らし、演習の時間を確保する。
- ② 生徒の意見やその相違を手がかりに対話を進めていくことで主体的に学び、基礎的な知識が身に付くよう留意する。
- ③ 生徒の認知プロセスを外化させるための教材を工夫する。
- ④ 生徒が解釈し、自らの考えを導き出し、表現するのに効果的な情報を課題に応じて取捨選択して活用する。
- ⑤ 生徒が、知識を身に付けるための文章等を読んで、内容を理解し、自分の考えを持って話し合いを行う機会を設ける。
- ⑥ 生徒が自分の考えについて、どのようにすればよりよい考えや表現になるのかを考察する機会を設ける。
- ⑦ 生徒同士が、学習の成果を互いに伝え合ったり、助言し合ったりして、学習を深め機会を設ける。
- ⑧ 授業のまとめとして、その時間の学習内容のポイントや思考を深めるヒントなどを解説する。
- ⑨ 生徒自身が学習内容を振り返る時間を確保する。

【学習活動の概要】

1 単元名 演習：鼻腔内の喀痰吸引					
2 単元の目標 鼻腔内の喀痰吸引が手順どおり適切に実施できる。					
3 単元の評価規準					
関心・意欲・態度	思考・判断・表現		技能	知識・理解	
鼻腔内の喀痰吸引について、意欲的に学ぼうとしている。	鼻腔内の喀痰吸引の手順や留意点の根拠について考察し、表現する力を身に付けている。		鼻腔内の喀痰吸引について、基礎的な技術を身に付けている。	鼻腔内の喀痰吸引の手順や留意点について基礎的な理解ができています。	
4 単元の指導計画 演習：鼻腔内の喀痰吸引…………… 12時間（本時は7・8/12時間目）					
次 程	ねらい・学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		関	思	技	
12 時 間	鼻腔内の喀痰吸引 【ねらい】鼻腔内の喀痰吸引を生活支援の観点で考察し、手順どおり実施する。				
	■ 鼻腔内の喀痰吸引の手順や留意点について、基礎的な知識を身に付けることができる。				● ・演習において、手順どおり適切に実施するための知識を身に付けている。 【ペーパーテスト・演習評価】
	■ 鼻腔内の喀痰吸引を手順どおり留意点を守り、実施できる。				● ・演習において、留意点を守り手順どおり実施できている。 【演習評価】
	■ 鼻腔内の喀痰吸引の演習の振り返りをし、気付いたことを適切にまとめることができる。	●			・演習を振り返り、適切なまとめが記入できている。 【ワークシート】
■ 鼻腔内の喀痰吸引について、手順や留意点の根拠を考察することができる。		●		・鼻腔内の喀痰吸引の手順や留意点の根拠を考察し、演習に生かそうとしている。 【ワークシート・演習評価】	

5 本時の指導計画

	学習内容	学習活動（生徒の活動）	指導の留意点*支援 （教師の活動）
導入 5分	鼻腔内の喀痰吸引の演習を通して根拠を学ぼう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の学習内容の確認 ・今回の学習内容の流れと動機づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・鼻腔内の喀痰吸引の留意点を確認する。 ・今回の演習では、それぞれの手順や留意点が、利用者にとってどういう意味があるのか考えながら行うことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の演習について留意した点を発表するよう促す。 ・本時の目的と流れを確認する。
展開 I 45分	手順や留意点を確認しながら、鼻腔内の喀痰吸引を実施しよう。【技能】 【課題】鼻腔内の喀痰吸引の手順や留意点の根拠を考えよう。【思考・判断・表現】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・鼻腔内の喀痰吸引を行う。 ・自立支援、安全・安楽、尊厳の保持という観点で手順や留意点を分類する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ順に手順に沿って、鼻腔内の喀痰吸引を行う。 ・演習を待っている間に自分の意見をまとめておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演習のチェックを行い、必要な助言を与え、お互いに課題となっている点を確認する。 ・静かに集中して取り組んでいるか観察する。
	【課題】鼻腔内の喀痰吸引の手順や留意点の根拠についてペアで話し合おう。 【思考・判断・表現】		
展開 II 45分	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで発表の準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアに分かれ、お互いの内容を確認し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手にわかりやすく説明できるか確認するよう伝える。
	【課題】発表から、鼻腔内の喀痰吸引の手順や留意点の根拠を学ぼう。 【思考・判断・表現】		
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を行う。 ・他の生徒の発表を聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表内容を確認し、ホワイトボードに発表の要点を記入する。 ・それぞれのペアが発表を行い、必要があれば質疑応答を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各ペアの様子を観察し、必要な助言を ・発表を聴く姿勢になっているか留意し、発表を進行する。 ・生徒に確認しながら、補足説明を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動で学んだことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各ペアの発表から、鼻腔内吸引の手順や留意点の根拠について確認する。 ・根拠をよく理解して、態度や演習の声かけなどに生かしていくことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各ペアの発表内容について整理する。 ・演習にどう生かしていくかが大切であることを確認する。 ・今回考えた手順や留意点の目的を達成するためには、単にテクニックが身に付けばよいのではなく、慎重に確認したりコミュニケーションの取り方を工夫する態度を身に付ける必要があることを確認する。

6 取り上げる言語活動と教材等

(1) 言語活動の内容及び指導上の留意点

- ・「鼻腔内の喀痰吸引」の手順や留意点を①安全・安楽, ②自立支援, ③尊厳の保持, のそれぞれの目的に分類する。
- ・ベアになって内容が適切か, 説明が伝わりやすいかを確認し合う。
- ・ホワイトボードに読みやすく記入し, 適切な態度で全体に発表する。
- ・生徒の発表について, 教員が解説することで順や留意点の目的について自分の考えを再構築し, ワークシートに記入する。
- ・学習内容を今後の演習にどう生かしていくかを考察し, ワークシートに記入する。

(2) ワークシート(教材)

課題 鼻腔内の喀痰吸引の手順や留意点を①安全・安楽, ②自立支援, ③尊厳の保持に分類する。

① 安全・安楽

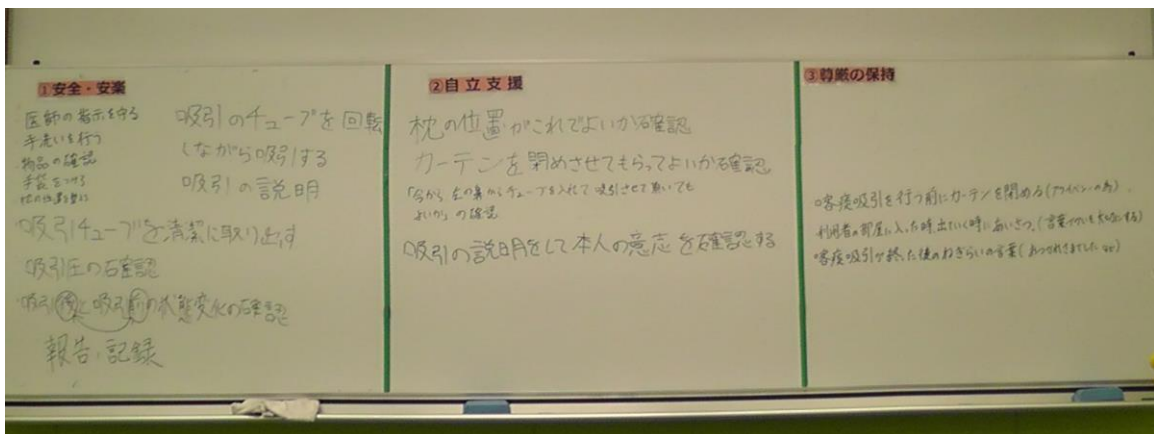
医師の指示を守る, 手洗いをを行う, 物品の消毒, 手袋をつける.
吸引チューブを清潔に取り出す, 吸引圧の確認, 吸引チューブを回転
確認, 吸引後と吸引前の状態変化の確認, 吸引の説明
報告・記録

② 自立支援

今の吸引をしてもよいかの確認, カーテンを開けてよいかの確認
本人の位置が正しいかの確認, 鼻からチューブを入れて吸引しても
よいかの確認

③ 尊厳の保持

カーテンを開ける(プライバシー) 部屋に合った, 出る日等のあいさつ.
吸引が済んだら日等の言葉かけ, 言葉かけに気をつける.



(3) 言語活動から学ぶこと

各自の分類した意図を説明することで, より充実した演習内容を考えていくことが目的である。安全の観点から, 利用者に行為の意図を伝えた方が理解や協力を得やすいと思われることなどは, コミュニケーションに取り入れ, 自立支援や尊厳の保持という観点から, 声かけの内容や態度に留意して演習に取り組めるようになることを考える。

【学習活動の概要】

1 単元名 演習：胃ろう(腸ろう)経管栄養
2 単元の目標 胃ろう(腸ろう)経管栄養が手順どおり適切に実施できる。

3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
胃ろう(腸ろう)経管栄養について、意欲的に学ぼうとしている。	胃ろう(腸ろう)経管栄養の手順や留意点の根拠について考察し、表現する力を身に付けている。	胃ろう(腸ろう)経管栄養について、基礎的な技術を身に付けている。	胃ろう(腸ろう)経管栄養の手順や留意点について、基礎的な理解ができている。

4 単元の指導計画 演習：胃ろう(腸ろう)経管栄養…………… 1 2時間 (本時は3～4・6/1 2時間目)

次 程	ねらい・学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
12 時 間	胃ろう(腸ろう)経管栄養 【ねらい】胃ろう(腸ろう)経管栄養を生活支援の観点で考察し、手順どおり実施する。					
	■胃ろう(腸ろう)経管栄養の手順や留意点について、基礎的な知識を身に付けることができる。				●	・演習において、手順どおり適切に実施するための知識を身に付けている。 【ペーパーテスト・演習評価】
	■胃ろう(腸ろう)経管栄養を留意点を守り手順どおり、実施できる。			●		・演習において、留意点を守り手順どおり実施できている。 【演習評価】
	■胃ろう(腸ろう)経管栄養の演習の振り返りをし、気付いたことをまとめる。	●				・演習を振り返り、適切なまとめが記入できている。 【ワークシート】
	■胃ろう(腸ろう)経管栄養について、手順や留意点の根拠を考察し、ペアで検討したことを含めてまとめることができる。		●			・胃ろう(腸ろう)経管栄養の手順や留意点の根拠を考察し、演習に生かそうとしている。 【ワークシート・演習評価】

5 本時の指導計画

	学習内容	学習活動（生徒の活動）	指導の留意点*支援 （教師の活動）
導入 5分	胃ろう(腸ろう)経管栄養の演習を振り返って、根拠を学ぼう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の学習内容の確認。 ・今回の学習内容の流れと動機づけ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・胃ろう(腸ろう)経管栄養の留意点を確認する。 ・今回の演習では、それぞれの手順や留意点が利用者にとってどういった意味があるかを考えながら行うことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の演習について留意した点を発表するよう促す。 ・本時の目的と流れを確認する。
展開 I 45分	手順や留意点を確認しながら、胃ろう(腸ろう)経管栄養を実施しよう。【技能】 【課題】胃ろう(腸ろう)経管栄養を手順や留意点の根拠を考えよう。【思考・判断・表現】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・胃ろう(腸ろう)経管栄養を行う。 ・自立支援、安全・安楽、尊厳の保持という観点で手順や留意点を分類する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ手順に沿って、胃ろう(腸ろう)経管栄養を行う。 ・演習を待っている間に自分の意見をまとめておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演習のチェックを行い、必要な助言を与え、お互いに課題となっている点を確認する。 ・静かに集中して取り組んでいるか観察する。
	【課題】胃ろう(腸ろう)経管栄養の手順や留意点の根拠についてペアで話し合おう。 【思考・判断・表現】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで発表の準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアに分かれ、お互いの内容を確認し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手にわかりやすく説明できるか確認するよう伝える。
展開 II 45分	【課題】発表から、胃ろう(腸ろう)経管栄養の手順や留意点の根拠を学ぼう。 【思考・判断・表現】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を行う。 ・他の生徒の発表を聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表内容を確認し、ホワイトボードに発表の要点を記入する。 ・それぞれが発表を行い、必要があれば質疑応答を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各ペアの様子を観察し、必要な助言を行う。 ・発表を聴く姿勢になっているか留意し、発表を進行する。 ・生徒に確認しながら、補足説明を行う。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動で学んだことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの発表から、胃ろう(腸ろう)経管栄養の手順や留意点の根拠について確認する。 ・根拠をよく理解して、演習の態度や声かけなどに生かしていくことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各ペアの発表内容について整理する。 ・演習にどう生かしていくかが大切であることを確認する。 ・今回考えた手順や留意点の目的を達成するためには、単にテクニックが身につけばよいのではなく、慎重に確認したりコミュニケーションの取り方を工夫する態度を身に付ける必要があることを確認する。

6 取り上げる言語活動と教材等

(1) 言語活動の内容及び指導上の留意点

- ・「胃ろう(腸ろう)経管栄養」の手順や留意点を『①安全・安楽, ②自立支援, ③尊厳の保持』のそれぞれの目的に分類する。
- ・自分の意見を形成した上で, ペアになってお互いに内容が適切か, 説明が伝わりやすいかを確認し合う。
- ・ホワイトボードに読みやすく記入し, 適切な態度で全体に発表する。
- ・各ペアの発表を教員が解説することで, 手順や留意点の目的について, 自分の考えを再構築し, ワークシートに記入する。
- ・学習内容を今後の演習にどう生かしていくかについて考察する。

(2) ワークシート(教材)

課題胃ろう(腸ろう)経管栄養の手順や留意点を①安全・安楽, ②自立支援, ③尊厳の保持の観点でに分類する。

1 自立支援

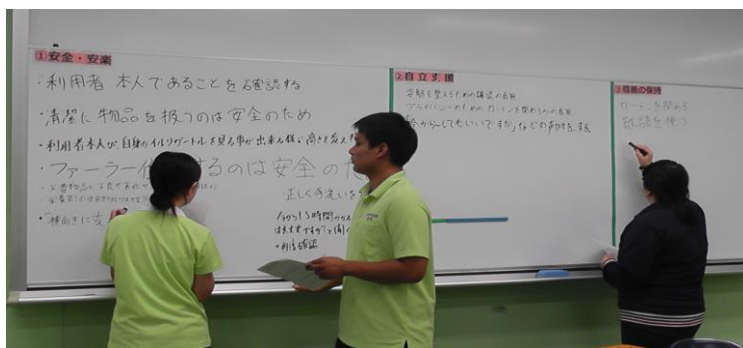
お食事にしてもよいか伺う カーテンを閉めた方がよいか伺う
声かけは「～してもよろしいですか。」とする。体位変換時の体位を確認する・・・

2 安全・安楽

医師の指示の確認 手洗い 必要物品の確認と清潔 栄養剤の期限の確認と清潔な準備
利用者の確認 排泄の確認 栄養チューブや胃ろうボタンの確認 注入速度
ファーラー位になってもらう 栄養剤の滴下状況の確認 30分後に側臥位にする
利用者の状態観察 イルリガードルを見える位置に置く・・・

3 尊厳の保持

あいさつをする 言葉遣いや口調に気を付ける 声かけをしないで, 勝手に行わない
カーテンを閉める 声かけの時には視線を合わせる・・・



(3) 言語活動から学ぶこと

各自の分類した意図を説明することで, より充実した演習内容を考えていくことが目的である。安全の観点から, 利用者に行為の意図を伝えた方が理解や協力を得やすいと思われることなどは, コミュニケーションに取り入れ, 自立支援や尊厳の保持という観点から, 声かけの内容や態度に留意して演習に取り組めるようになることを考える。

5 本時の指導計画

	学習内容	学習活動（生徒の活動）	指導の留意点*支援 （教師の活動）
導入 5分	<p>胃ろう(腸ろう)経管栄養の動画を観て、よりよい支援について考えよう。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の学習内容の確認。 ・今回の学習内容の流れと動機づけ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・胃ろう(腸ろう)経管栄養の演習を行い、根拠の分類を演習に生かしたか確認する。 ・代表者の動画を観ながら、全員でよりよい支援の在り方について考察することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の演習について、自己評価を発表するよう促す。 ・本時の目的と流れを確認する。
展開 II 40分	<p>【課題】胃ろう(腸ろう)経管栄養の動画を観て、工夫している点や工夫が必要な点について考えよう。 【思考・判断・表現】</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を観る。 ・工夫している点や工夫が必要な点について考察し、ワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回行った演習の動画を観る。 ・自分の意見をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモをとりながら、注意深く観るよう助言する。 ・静かに集中して取り組んでいるか観察する。
	<p>【課題】工夫している点や工夫が必要な点について、簡潔にカードにまとめよう。 【思考・判断・表現】</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・カードに記入し、発表の準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をカードに適切に記入し、ホワイトボードに貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者にわかりやすく説明できるか確認するよう伝える。 ・各自の様子を観察し、必要な助言を行う。
	<p>【課題】発表から、胃ろう(腸ろう)経管栄養の手順や留意点の根拠を学ぼう。 【思考・判断・表現】</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を行う。 ・他の生徒の発表を聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが発表を行い、必要があれば質疑応答を行う。 ・それぞれの発表から、胃ろう(腸ろう)経管栄養のよりよい支援内容について考察し、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聴く姿勢になっているか留意し、発表を進行する。 ・生徒に確認しながら、カードを使って補足説明を行う。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動で学んだことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠をよく理解し、演習では、より利用者に配慮した支援のために、自分なりの工夫を行うことが重要であることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回考えた内容を演習に取り入れ、利用者にとってより安全・安心であり、自立支援や尊厳の保持につながる支援を行うことを確認する。

6 取り上げる言語活動と教材等

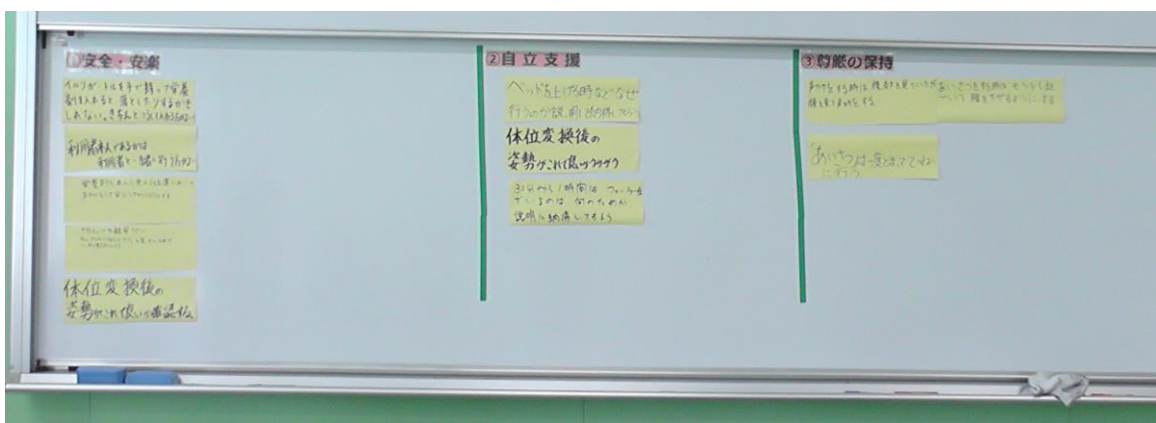
(1) 言語活動の内容及び指導上の留意点

- ・動画を観ながら、以前の学習で、演習の手順の根拠について検討した内容と比較し、工夫している点や工夫が必要な点について考え、自分の意見を形成する。
- ・自分の意見をカードにまとめてホワイトボードに貼り、ポイントを押さえて発表する。
- ・他の生徒の発表について、自分の考えと比較し、質問や意見を述べる。
- ・生徒の発表について、教員が解説することで、次回の演習に反映できるよう自分の考えを再構築し、ワークシートにまとめる。

(2) ワークシート（教材）

課題前回の授業で考えた①安全・安楽②自立支援③尊厳の保持に関する内容を参考にし、演習の動画を観て、工夫している点と工夫が必要な点は何か、考えよう。

①安全・安楽		②自立支援		③尊厳の保持	
<p>①安全・安楽</p> <p>利用者の安全・安楽を確保するための確認事項</p> <p>利用者の安全・安楽を確保するための確認事項</p> <p>利用者の安全・安楽を確保するための確認事項</p>	<p>②自立支援</p> <p>利用者の自立支援を促進するための確認事項</p> <p>利用者の自立支援を促進するための確認事項</p> <p>利用者の自立支援を促進するための確認事項</p>	<p>③尊厳の保持</p> <p>利用者の尊厳を保持するための確認事項</p> <p>利用者の尊厳を保持するための確認事項</p> <p>利用者の尊厳を保持するための確認事項</p>	<p>①安全・安楽</p> <p>利用者の安全・安楽を確保するための工夫</p> <p>利用者の安全・安楽を確保するための工夫</p> <p>利用者の安全・安楽を確保するための工夫</p>	<p>②自立支援</p> <p>利用者の自立支援を促進するための工夫</p> <p>利用者の自立支援を促進するための工夫</p> <p>利用者の自立支援を促進するための工夫</p>	<p>③尊厳の保持</p> <p>利用者の尊厳を保持するための工夫</p> <p>利用者の尊厳を保持するための工夫</p> <p>利用者の尊厳を保持するための工夫</p>
<p>①安全・安楽</p> <p>利用者の安全・安楽を確保するための工夫</p> <p>利用者の安全・安楽を確保するための工夫</p> <p>利用者の安全・安楽を確保するための工夫</p>	<p>②自立支援</p> <p>利用者の自立支援を促進するための工夫</p> <p>利用者の自立支援を促進するための工夫</p> <p>利用者の自立支援を促進するための工夫</p>	<p>③尊厳の保持</p> <p>利用者の尊厳を保持するための工夫</p> <p>利用者の尊厳を保持するための工夫</p> <p>利用者の尊厳を保持するための工夫</p>	<p>①安全・安楽</p> <p>利用者の安全・安楽を確保するための工夫</p> <p>利用者の安全・安楽を確保するための工夫</p> <p>利用者の安全・安楽を確保するための工夫</p>	<p>②自立支援</p> <p>利用者の自立支援を促進するための工夫</p> <p>利用者の自立支援を促進するための工夫</p> <p>利用者の自立支援を促進するための工夫</p>	<p>③尊厳の保持</p> <p>利用者の尊厳を保持するための工夫</p> <p>利用者の尊厳を保持するための工夫</p> <p>利用者の尊厳を保持するための工夫</p>



(3) 言語活動から学ぶこと

演習の動画を事例とし、工夫している点と工夫が必要な点を検討することで、これまでは見過ごしていた留意点に気付き、自分の演習に取り入れ、演習内容を充実させることが目的である。同じ動画を観て、検討を重ねることで、多角的な見方を身に付け、全体で学びを共有することができる。と考える。

【学習活動の概要】

1 単元名 「呼吸器系のしくみ」（こころとからだの基礎的理解）						
2 単元の目標 呼吸器系の基本的なしくみとはたらきについて理解する。						
3 単元の評価基準						
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		知識・理解		
呼吸器系について関心をもち、ワークシートにまとめている。		呼吸器系について学んだことから問題を考え、発問し合うことができる。		気道、肺のしくみ、ガス交換、換気、外呼吸、内呼吸、換気回数と量について理解している。		
4 単元の指導計画						
次程	ねらい・学習活動	評価の観点				評価基準・評価方法
		関	思	技	知	
第一次 （二時間）	<ul style="list-style-type: none"> ■気道について理解する。 ■鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支について理解する。 ■本時の学びを振り返り、生徒がお互いに問題を作成し解答し合う。 	●	●			<ul style="list-style-type: none"> ・気道について関心をもち、理解している。 【ワークシート】 ・気道について学んだことから作問し、解説を考え、生徒同士で問題を出し合うことができている。 【カード】
<p>第一次 気道のしくみとはたらき・・・・・・・・・・ 1時間（本時）</p> <p>第二次 肺のしくみとはたらき、呼吸について・・ 1時間</p>						
5 本時の指導計画						
	学習内容	学習活動（生徒の活動）		指導の留意点*支援（教師の活動）		
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・始業の挨拶。 ・本時の学習内容について。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を説明する。 ・ワークシートを配布する。 		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・気道とは何か。 ・鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支について。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気道についてワークシートに記入する。 ・鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支について、説明を聞き、ワークシートに記入する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・気道についての説明を行う。 ・鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支について、スライドを用いて説明を行う。 		
【課題】今日の授業で学んだことについて、問題を作成しましょう。						
	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を作成する。 ・問題を出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を作成する。 ・ペアになり、発問し、解説し合う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・問題を作成し、発問し合うように指導する。 ・問題内容を考えられない場合は、助言を行う。 		

まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の振り返り。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発問に答える。 ・ 本時の内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作問されていない項目について、発問し、解説を行う。 ・ 本時の学習内容を振り返る。
-----------	--	--	--

6 取り上げる言語活動と教材等

(1) 言語活動

- ・ 授業の始まりの時に、授業の後半で、生徒が問題を作成することを伝えておく。
- ・ それぞれの部位のしくみやはたらきなどの特徴を、スライドを用いて視覚的な意識づけを行う。
- ・ 生徒が問題作成する際、必要時、適切な助言を行う。

(2) 言語活動の充実の工夫

こころとからだの理解は、介護を必要とする人の「こころ」と「からだ」について学ぶ。医学的な内容も多く取り上げられており、基礎的知識の強化充実が必要である。専門的な内容が多く、知識・理解を深めることに重点を置き、指導する。

① 目的や意図に応じた意識付けを行う。

この單元において、学んだ知識を定着するために言語活動を活用した。

授業の始めに、後半に生徒自身で問題を作成することを伝えておくことにより、学習への見通しをもたせ、目的や意図に応じて意識的に学習することにつながる。

本時の單元において、気道について、スライドを活用しながら、視覚的な印象を与えることで、より分かりやすい授業を心がけた。授業の後半で、生徒が問題を考えやすいように、説明の仕方にも配慮した。

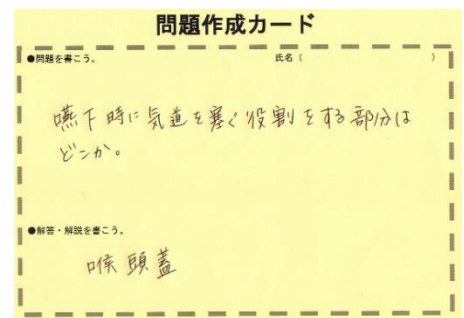


② 自分の言葉で学習を振り返らせる。

学びを自分の言葉に置き換えて問題を考えることで、自分の理解度を知ることができ、その問題を出し合い解説することで、さらなる学習への深まりにつながる。

問題を作成するにあたり、本時の内容をもとに作成するように促すが、作成できない場合は助言を行う。最後は自分の言葉で作成できるように導いていく。

ペアで問題を出し合い、お互いに教え合うことで学びが深まる。さらに考えた問題をクラスで共有することで、クラス全体の学びが深まる。



課題 本時の授業で学んだことから、問題を考え、カードに書こう。(ペア) 問題・解答を書いておこう。

【学習活動の概要】

1 単元名						
「入浴・清潔に関するこころとからだのしくみ」（生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解）						
2 単元の目標						
入浴・清潔に関するこころとからだのしくみを理解する。						
3 単元の評価基準						
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		知識・理解		
入浴・清潔に関するこころとからだのしくみについて関心をもち、ワークシートにまとめている。 発汗のしくみについて関心をもち、ワークシートにまとめている。 視覚機能低下のある人・運動機能が低下している人への入浴の援助に関する留意点や方法についてペアで検討し、ワークシートにまとめている。		ヒートショックについて、ペアで思考を深めることができている。 浴室内で事故が発生する要因について考察し、ワークシートにまとめている。		入浴・清潔の意味、皮膚の構造・機能、発汗のしくみ・発汗の種類、入浴の効果・作用・影響、皮膚の機能低下が及ぼす身体への影響を理解している。		
4 単元の指導計画						
次 程	ねらい・学習活動	評価の観点				評価基準・評価方法
		関	思	技	知	
第 一 次 （ 一 時 間）	■不潔の状態を考え、清潔の意味について思考を深める。		●			・清潔の生理的・心理的・社会的意味を理解している。 【ワークシート】
	■皮膚の構造・機能を理解する。	●			●	・皮膚の構造と機能について理解している。 【ワークシート】【定期考査】
第一次・・清潔の生理的意味・皮膚のしくみ・・・・・・1時間（本時）						
第二次・・発汗のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・1時間						
第三次・・皮膚・頭皮の汚れ・入浴の効果と作用・・・・1時間						
第四次・・皮膚機能の低下や障害がからだに及ぼす影響・・・3時間						
第五次・・入浴が及ぼす影響・・・・・・・・・・・・・・・・1時間						
5 本時の指導計画						
	学習内容	学習活動（生徒の活動）		指導の留意点*支援（教師の活動）		
導 入 5 分	・本時の内容を確認する。	・本時より、「入浴・清潔に関するこころとからだのしくみ」を学ぶことを理解する。		・起立・礼を行い、身だしなみを整え、落ち着いた環境を整える。 ・本時の学習の流れを確認する。		
展 開 35 分	・清潔の意味を学ぶ。	・不潔な状態を考え、清潔にする意味を考える。		・清潔の意味を考える前に、不潔な状態とはどういう状態かを考えさせ、そこから清潔にする意味を理解させる。		

	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚の構造・機能を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚のしくみ、皮膚の機能について説明を聞いてワークシートにまとめる。 ・セロハンテープを皮膚に貼り、はがすと角質層がつく。それが垢となることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚の構造・機能について理解させる。 ・机間巡視をし、個々の取り組み状況を把握し、助言を行う。 ・セロハンテープを皮膚に貼り、角質層が付いてくることで、皮膚の構造を身近に感じられるように支援する。
	<p>【課題】皮膚の構造・機能についてまとめよう。【関心・意欲・態度】</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学んだことの振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚の構造と機能を関連付けて考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視をし、個々の取り組み状況を把握し、助言を行う。
まとめ 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・課題について発表し、学びを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚の構造と機能についてのまとめをホワイトボードに記入し、発表する。 ・発表者以外は、不足している部分を書き足す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に板書・発表させ、不足分は補足説明する。 ・机間巡視し、個々の取り組み状況を把握し、助言を行う。 ・次回の授業の予告をする。

6 取り上げる言語活動と教材等

(1) 言語活動

- ・不潔な状態がもたらす日常生活への影響を考え、発表する。
- ・皮膚について学習した後に、皮膚の構造について興味をもつため、自分の皮膚にセロハンテープを貼り、白く付着するものが何か考え、発表する。
- ・授業の後半に、本時の内容のまとめをワークシートに記入する。
- ・まとめを板書し発表することで、共通理解を図る。



(2) 言語活動の充実の工夫

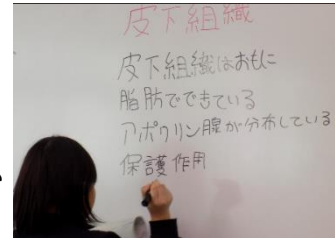
「生活支援に必要なところとからだの理解」では、基本的なしくみを学んだ上で、日常生活における具体的な支援のためのところとからだのしくみについて学ぶ。

日常生活に必要な介護場面における知識や想定される事象について、多角的に考えることができる力を養うことに重点を置き、指導する。



①目的や意図に応じた意識づけを行う。

この单元において、「皮膚のしくみ」について、目に見える体験（角質層の採取）をすることで、自分の皮膚の構造に興味をもち、より理解しやすいような授業を心がけた。また、清潔・不潔とはどういうことか、生徒自身の体験をもとに興味をもたせ、考えさせるように心がけた。



②自分の言葉で学習を振り返らせる。

授業の後半で、本時の学びを振り返り、学んだ内容をワークシートに記入することで、学習の定着を図ることができる。白板に板書し、発表し合うことで、クラス全体の学びとなる。また、個々のワークシートを評価することで、生徒の理解度を知ることができ、今後の指導に繋げることができる。

【課題】皮膚の構造・機能についてまとめよう。

- 外側から、表皮、真皮、皮下組織の三层で構成されている。
- 表皮は5層あり、最表層の角質層は保護作用がある。ビタミンDの生成に関与する。
- 角質層は約28日周期ではがれ落ちて垢となる。
- 真皮は、エクリン腺や皮脂腺があり保温・排せつ機能がある。
- 感覚受容器が分布しており、知覚機能がある。
- 血管が分布しており皮膚表面からの熱放散量が調整されている。
- 皮下組織はおもに脂肪でできている。
- アポクリン腺が分布している。
- 保護作用（クッションの役割）

【学習活動の概要】

1 単元名 「高齢者に多い消化器系の疾患」（人間の成長と発達の基礎的理解）		
2 単元の目標 老年期では、老化に伴う身体機能の低下による疾病が増加する。高齢者の疾病の特徴を把握し、症状や日常生活への影響を理解する。		
3 単元の評価基準		
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
消化器系の疾患について関心をもち、ワークシートにまとめている。 【ワークシート】	消化器系の疾患のある人の日常生活の留意点について、考察している。 【ワークシート】	胃・十二指腸潰瘍、逆流性食道炎、腸閉塞、大腸がん、肝疾患の特徴について理解している。 【ペーパーテスト】

4 単元の指導計画						
次 程	ねらい・学習活動	評価の観点				評価基準・評価方法
		関	思	技	知	
第 一 次 （ 一 時 間）	■胃・十二指腸潰瘍について基礎的な知識を身につける。	●			●	・胃・十二指腸潰瘍について理解している。 【定期考査】【ワークシート】
	■胃・十二指腸潰瘍のある人の日常生活の留意点を考え、カードに記入し、グループで意見を出し合い発表する。		●			・胃・十二指腸潰瘍のある人の日常生活の留意点について、個人でカードに記入している。 【カード】 ・グループで話し合い、意見をまとめ、発表する。 【グループワーク】
第一次・・・胃・十二指腸潰瘍について・・・1時間（本時）						
第二次・・・逆流性食道炎について・・・1時間						
第三次・・・腸閉塞について・・・1時間						
第四次・・・大腸がんについて・・・1時間						
第五次・・・肝炎について・・・2時間						
第六次・・・肝硬変について・・・1時間						

5 本時の指導計画			
	学習内容	学習活動（生徒の活動）	指導の留意点*支援（教師の活動）
導 入 5 分	・始業の挨拶。 ・本時の内容の確認。	・胃・十二指腸潰瘍について学ぶことを把握する。	・起立・礼を行い、身だしなみを整え、落ち着いた環境を整える。 ・胃・十二指腸潰瘍について学ぶことを説明する。

展 開 40 分	・胃・十二指腸潰瘍の起こり方、症状、治療などを学ぶ。	・胃・十二指腸潰瘍について説明を聞いてワークシートに記入する。	・胃・十二指腸潰瘍の起こり方、症状、治療について、スライドを用いて説明する。
	【課題】胃・十二指腸潰瘍のある人の日常生活の留意点についてカードに書きましょう。【思考・判断・表現】		
		・個人で考えカードに記入する。	・それぞれの考えをカードに記入するように促す。 ・机間巡視をし、個々の取り組み状況を把握し、助言を行う。
	【グループワーク】グループになって意見をまとめ、発表しよう。【関心・意欲・態度】		
	・グループになり、カードを持ち寄り、類型にまとめ、白板に貼り発表する。	・グループで協力できているか、机間巡視をし、助言を行う。 ・発表がスムーズに進行するように助言を行う。	
ま と め 5 分	・解答・解説。 ・本時の振り返り。	・ワークシートにまとめを記入する。	・補足説明し、振り返りを行う。 ・次回の授業の予告をする。

6 取り上げる言語活動と教材等

(1) 言語活動

- ・胃・十二指腸潰瘍のある人の日常生活の留意点について、カードに記入する。
- ・グループになり、それぞれの意見を持ち寄り、類型にまとめる。
- ・発表する。

(2) 言語活動の充実の工夫

人間の成長と発達の理解は、老年期における身体機能の変化、高齢者に多く見られる疾患について学ぶ。疾患については特に医療職との連携が必要であり、その為に介護者は専門的な知識を深め、理解することが重要である。理解が困難な場合、生徒同士で理解し合えるような取り組みが重要であると考え、指導する。

①目的や意図に応じた意識づけを行う。

この単元は、医学的な内容を多く取り扱っており、生徒同士で学び合うことがより理解を深めることにつながると考えられる。

授業の最初に、胃・十二指腸潰瘍についての説明を行い、ワークシートに記入させる。用いるワークシートは、スライドをもとに、記入する欄を少なくし、図式化することで、理解しやすい内容になるように工夫した。書き写す時間を短縮することで、後のカード記入、グループワークの時間を多くとることが出来るように工夫した。

②グループワークに参加出来る状況を作る。自分の意見を述べやすい工夫・環境への配慮。

授業の後半で、本時の学びをもとに、最初は自分の言葉でカードに記入し、それを持ち寄ることで、それぞれの意見をメンバーで協力してまとめ、全員が発言できる状況を作るように配慮した。大きなカードに自分の意見を記入するのに抵抗がある生徒もいると考えられるため、個人カードは小さめとした。少人数のため、座席の配置を工夫し、小さいカードでも見えるような配置をした。



【学習活動の概要】

1 単元名 「高齢者に多い泌尿器系の疾患」（人間の成長と発達の基礎的理解）						
2 単元の目標 老年期では、老化に伴う身体機能の低下による疾病が増加する。高齢者の疾病の特徴を把握し、症状や日常生活への影響を理解する。						
3 単元の評価基準						
<table border="1"> <tr> <th>関心・意欲・態度</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>知識・理解</th> </tr> <tr> <td>泌尿器系の疾患について関心を持ち、ワークシートにまとめている。 【ワークシート】</td> <td>尿路感染症のある人の介護について、考察できる。 【ワークシート】</td> <td>尿路感染症、前立腺の疾患、腎不全の特徴や透析療法について理解することができる。 【ペーパーテスト】</td> </tr> </table>	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解	泌尿器系の疾患について関心を持ち、ワークシートにまとめている。 【ワークシート】	尿路感染症のある人の介護について、考察できる。 【ワークシート】	尿路感染症、前立腺の疾患、腎不全の特徴や透析療法について理解することができる。 【ペーパーテスト】
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解				
泌尿器系の疾患について関心を持ち、ワークシートにまとめている。 【ワークシート】	尿路感染症のある人の介護について、考察できる。 【ワークシート】	尿路感染症、前立腺の疾患、腎不全の特徴や透析療法について理解することができる。 【ペーパーテスト】				

4 単元の指導計画						
次 程	ねらい・学習活動	評価の観点				評価基準・評価方法
		関	思	技	知	
第四次 （一時間）	<ul style="list-style-type: none"> ■腎臓のしくみ、疾患について基礎的な知識を身につける。 ■透析療法のしくみに関心を持ち、ワークシートにまとめる。 ■学習のまとめをワークシートにまとめる。 ■小テストに積極的に取り組む。 	●			●	<ul style="list-style-type: none"> ・腎臓のしくみ、疾患について理解している。 【定期考査】 ・透析療法のしくみについて理解している。 【ワークシート】 ・透析療法について理解している。 【小テスト】
第一次・・・尿路感染症について・・・・・・・・・・1時間						
第二次・・・前立腺肥大症・前立腺がんについて・・・・・・・・1時間						
第三次・・・腎不全について・・・・・・・・・・1時間						
第四次・・・透析療法について・・・・・・・・・・1時間（本時）						

5 本時の指導計画			
	学習内容	学習活動（生徒の活動）	指導の留意点*支援（教師の活動）
導 入 5 分	<ul style="list-style-type: none"> ・始業の挨拶。 ・前回の学習内容の振り返り。 ・本時の内容の確認。 ・小テストの予告。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回学んだ、腎臓のはたらきについて確認する。 ・透析療法について学ぶことを把握する。 ・小テストがあることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・起立・礼を行い、身だしなみを整え、落ち着いた環境を整える。 ・腎臓のはたらきについて発問し、確認する。 ・透析が必要な状態を確認する。 ・授業後半で、小テストを行うことを予告する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・透析のしくみを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・血液透析について説明を聞いてワークシートに記入する。 ・腹膜透析について説明を聞いてワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・血液透析・腹膜透析のしくみについて、スライドを用いて説明する。

展 開 35 分	【課題】透析療法についてまとめよう。【関心・意欲・態度】		
		・ワークシートに学びを記入する。	・机間巡視をし、個々の取り組み状況を把握し、助言を行う。
	【小テスト】振り返りの小テストを行います。最初の5分は自分で解いてください。【知識・理解】		
	・小テストを配布。 ・生徒同士で解答を考える。	・小テストをする。 ・生徒同士、教え合う。	・小テストを配布し、最初の5分は自力で行う。その後、席移動を許可し、互いに教え合う。 ・机間巡視をし、解答に困っている生徒がいれば助言を行う。
ま と め 10 分	・解答・解説。 ・本時の振り返り。	・挙手をし、解答を発表する。 ・答え合わせをし、授業の振り返りを行う。	・解答する。(時間が足りない場合は回収し、次回解答・解説する。) ・補足説明し、本時の振り返りを行う。 ・次回の授業の予告をする。

6 取り上げる言語活動と教材等

(1) 言語活動

- ・透析療法についての学びを振り返り、ワークシートに記入する。
- ・小テストを最初の5分は自分で取り組み、その後は生徒同士あるいはプリント等を見て解答する。
- ・生徒が解答を発表する。

(2) 言語活動の充実の工夫

人間の成長と発達の理解は、老年期における身体機能の変化、高齢者に多く見られる疾患について学ぶ。疾患については特に医療職との連携が必要であり、その為に介護者は専門的な知識を深め、理解することが重要である。理解が困難な場合、生徒同士で理解が深められるような取り組みが重要であると考える。指導する。

①目的や意図に応じた意識づけを行う。

この単元は、医学的な内容を多く取り扱っており、生徒同士で学び合うことがより理解を深めることにつながると考えられる。授業の最初で、透析療法について板書をせず、全てスライドを用いて説明した。板書を省いた分、後の生徒同士の学びに時間を取りたいと考えたからである。学びを振り返る際に、ワークシートにあらかじめスライドで使用する図や表を印刷し、振り返りやすいように工夫した。

②自分の言葉で学習を振り返らせる。

授業の後半で、自分の言葉で本時の振り返りを行い、小テストで重要ポイントを確認する。

わからない場合は、プリントを参考にしたり、生徒同士で教え合うことで、再確認することができる。解答も生徒が発表することで、発表者も、聞く生徒にとってもより関心をもって取り組むことができる。

ここからからの理解(人間の成長と発達の基礎的理解) 小テスト

3年1組()番 氏名()

1] 血液透析の方法を説明しなさい。

廃物を含んだ血液を体外に取り出し、ダイアライザー(人工膜)に通すことにより血液中の老廃物、過剰な水分を取り除き、きれいになった血液を再度体内に返却する方法。

2] 腹膜透析の方法を説明しなさい。

腹腔内にカテーテルを使って透析液を注入し、一定時間滞留する間に老廃物、過剰な水分を腹膜を介して腹腔内の透析液に移行させ、その液を体外に取り出して血液を浄化する方法。

3] シヤントとは何か、説明しなさい。

橈骨動脈と橈骨皮静脈をつなげた部分のこと。
血液透析の際に使用する。

4] 不均衡症候群の起こり方を説明しなさい。

透析によって血液と脳との間に尿素や浸透圧、pHの差が生じたために起こる。

5] 血液透析と比較して、腹膜透析の生活上の利点を5つ書きなさい。

自宅や職場で透析が行える。

通院回数が月1~2回で良い。

自分で行える。

食事制限は、血液透析に比べて緩い。

生活リズムに合わせて透析が可能。



【学習活動の概要】

1 単元名

「認知症の主な病気の特徴 5 前頭側頭型認知症(ピック病)」(認知症の理解)

2 単元の目標

認知症の主な病気の特徴や症状を理解する。

認知症の主な病気の特徴を踏まえた支援の在り方や環境への配慮について考察する。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
認知症の主な病気に伴う症状や日常生活に及ぼす影響に関心を持ち、意欲的に学ぶ態度を身に付けている。	認知症の主な病気の特徴や症状を踏まえた支援の在り方や環境への配慮について考察している。	認知症の主な病気について基礎的な知識を身に付け、特性を踏まえた支援の在り方や環境への配慮について基礎的な理解をしている。

4 単元の指導計画

第一次 認知症の原因となる主な病気…………… 1時間

第二次 アルツハイマー型認知症…………… 2時間

第三次 脳血管性認知症…………… 1時間

第四次 レビー小体型認知症…………… 2時間

第五次 前頭側頭型認知症(ピック病)…………… 2時間(本時は2/2時間目)

次 程	ねらい・学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第 五 次 （ 2 時 間 ）	前頭側頭型認知症(ピック病) 【ねらい】前頭側頭型認知症の特徴及び症状について理解し、支援の在り方を考える。					
	■ 前頭側頭型認知症の特徴、症状及び支援の在り方について基礎的な知識を身に付ける。 ■ 事例を通して、前頭側頭型認知症の特徴及び症状を踏まえた支援の在り方や環境への配慮について考察した内容をワークシートにまとめる。					● ・前頭側頭型認知症の特徴、症状及び支援の在り方について理解している。 【定期考査】 ・前頭側頭型認知症の特徴及び症状を踏まえた支援の在り方や環境への配慮について気づき、理解を深めている。 【ワークシート】

5 本時の指導計画

	学習内容	学習活動（生徒の活動）	指導の留意点*支援 （教師の活動）
導入 15分	前頭側頭型認知症について,前回の授業で学んだことを振り返ろう		
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の学習内容の確認 ・今回の学習内容の流れと動機づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・前頭側頭型認知症の特徴と症状について確認する。 ・前頭側頭型認知症のある人の行動のコントロールに対する支援の在り方について考察したことをまとめ,各自で発表することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドで前回の学習内容を示しながら発問する。 ・前頭側頭型認知症では,介護によって行動をうまくコントロールすることで,生活の質を保つことが重要であることを確認する。 ・本時の流れを説明する。
展開 30分	【課題】事例から,前頭側頭型認知症のある人の行動のコントロールに対する支援について,自分の考えをまとめよう。【思考・判断・表現】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の内容についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに自分の意見をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの様子を観察し,必要な助言を行う。
	【課題】ペアになって,お互いの意見を確認しよう。【思考・判断・表現】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで意見を確認し合い,発表の準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアになって,お互いの発表内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの様子を観察し,必要な助言を行う。
まとめ 5分	【課題】個人の発表から,前頭側頭型認知症の特徴を踏まえた支援の在り方を学ぼう。【思考・判断・表現】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが時間内で発表を行い,必要があれば質疑応答を行う。発表を聴く時は記録をしながら聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの発表の様子を観察し,必要な助言を行う。 ・発表を聴く姿勢になっているか留意しながら,発表を進行する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動で学んだことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの発表から,前頭側頭型認知症の特性を踏まえた行動のコントロールに対する支援の内容について理解する。 ・危険を回避するために行動のコントロールを支援することは必要であるが,利用者の生活の質の向上についても留意することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表内容について整理する。 ・前頭側頭型認知症の特性を踏まえた行動のコントロールに対する支援の内容について理解を深めることができるよう留意する。 ・Aさんと奥さんが自宅で楽しみや生きがいのある生活を送るために必要な支援が大切であることを確認する。

6 取り上げる言語活動と教材等（単元の概要でも可）

（1）言語活動の内容及び指導上の留意点

- ・事例を読んで、記載されていないものも含め、前頭側頭型認知症の特性を踏まえた支援の在り方や環境への配慮について自分の考えをまとめる。
- ・考察した内容をホワイトボードに適切にまとめ、ペアになって発表内容が適切かどうかを確認し合う。
- ・適切な態度で、全体に発表する。
- ・質疑応答を行う。
- ・各グループの発表を教員がまとめることで、前頭側頭型認知症の人の支援の在り方について自己の考えを深める。
- ・疾患の特性を踏まえた支援の在り方について、学習内容をまとめる。

（2）ワークシート(教材)

課題

前頭側頭型認知症では、適切な介護による行動のコントロールが必要になるが、次の事例の具体例をグループで考えて、まとめよう。

Aさん（62歳、男性）は妻（60歳）と2人で生活している。子どもが3人いるが遠方に住んでいる。Aさんは昨年从前頭側頭型認知症を発症しており、要介護2である。症状としては、一日中出歩いてしまうことや自動車の危険運転がある。また、家にいるときは、甘い物をたくさん食べてしまう。歯磨き粉を食べてしまったこともあった。妻は夫との生活を続けたいが、どうしてよいか不安であると訴えている。

【例】

- ① デイサービスを利用する。同じ行動を繰り返すことを好むので、月曜から金曜まで同じ施設で過ごすことはよい。
- ② 常同行動があり、時間にこだわる人が多いので、一日中出歩いて困る場合には、午後3時をおやつの時間に決めて戻ってきてもらうようにする。
- ③ 甘い物を多く買わない、車の鍵を家族が持っているようにするなど、行動を誘発する物を管理し目の前に置かないことも重要。
- ④ 進行すると、洗剤など見えたものを食べたり飲んだりしてしまうことがあるため、口に入れてしまう可能性があるものはしまっておくことも必要。
- ⑤ 一緒に楽しめる趣味を持つ。



※疾患の特徴を理解した上で考察するが、危険を回避するための行動コントロールのみにならないよう、事例をもとに利用者の生活の質の向上につながる支援に気づくような授業展開とした。

【学習活動の概要】

1 単元名 「認知症に伴う心身の変化と日常生活」(認知症の理解)						
2 単元の目標 認知症の人の特徴的な心理や行動障害を理解し、認知症の人の内的世界を理解しようとする態度を身に付ける。 認知症のある人の特性を踏まえたアセスメントの在り方及び環境への配慮の重要性を理解する。						
3 単元の評価規準						
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		知識・理解		
認知症に伴う心身の変化と日常生活に及ぼす影響に関心を持ち、意欲的に学ぶ態度を身に付けている。		認知症ある人の行動・心理症状(BPSD)への支援や心理の理解、認知症のある人の環境への配慮について考察し、適切にまとめる力を身に付けている。		認知症のある人の行動・心理症状(BPSD)と支援の在り方、認知症のある人の環境への配慮について基礎的な理解ができています。		
4 単元の指導計画						
第一次 認知症の人の特徴的な行動・心理……3時間(本時は3/3時間目)						
第二次 認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響……4時間						
次 程	ねらい・学習活動		評価の観点			評価規準・評価方法
			関	思	技	
第 一 次 (3 時 間)	認知症の人の特徴的な行動・心理 【ねらい】 認知症の人の特徴的な行動や心理について理解し、支援の在り方を考える。					
	■認知症の行動・心理症状(BPSD)と支援の在り方について理解する。 ■事例を通して、認知症のある人の行動・心理症状(BPSD)への支援や、その背景にある認知症高齢者の本当の願いについて理解を深める。		●		● 認知症ある人の行動・心理症状(BPSD)と支援の在り方について基礎的な知識を身に付けている。 【定期考査】 ● 認知症のある人の行動・心理症状(BPSD)への支援や、その背景にある認知症高齢者の心理に気づき、考察した内容を適切にまとめている。 【ワークシート】	

5 本時の指導計画

	学習内容	学習活動（生徒の活動）	指導の留意点*支援 （教師の活動）
導入 5分	認知症の人の内的世界について,前回の授業で学んだことを振り返ろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の学習内容の確認 ・今回の学習内容の流れと動機づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動・心理症状（BPSD）への対応のポイントを確認する。 ・事例を通して、支援の在り方を学習することを確認し、本時の流れを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症のある人の行動や言語をよく観察し、行動の背景を把握する必要があることを確認する。 ・本時の学習の流れと目的を説明する。
展開 40分	【課題】事例から、CさんのPBSDの背景になっている中核症状や生活歴をまとめよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・事例から、Cさんの行動・心理症状（BPSD）の背景を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例とスライドを見ながら、Cさんの中核症状や生活歴をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを使って、Cさんの状況や生活歴について説明を行う。
	【課題】事例から、Cさんへの支援について、グループで話し合おう。【思考・判断・表現】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・事例から、Cさんに必要な支援についてグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれ,リーダーを中心にホワイトボードを活用した話し合いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの様子を観察し、必要な助言を行う。
【課題】グループの発表から、認知症のある人の内的世界の理解が適切な支援につながることを確認しよう。【思考・判断・表現】			
<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで発表の準備を行う。 ・Cさんへの対応について、各グループの発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者や発表内容を確認する。 ・それぞれのグループが時間内で発表を行い、必要があれば質疑応答を行う。発表を聴く時は記録しながら聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの様子を観察し、必要な助言を行う。 ・発表を聴く姿勢になっているか留意し,発表を進行する。 	
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動で学んだことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表から,認知症のある人の内的世界を理解した上での支援の在り方を確認する。 ・認知症のある人の生活歴や性格をアセスメントすることの重要性を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表内容について整理する。 ・Cさんの思いを知ること、適切な支援につながることを確認する。 ・認知症のある人の行動・心理症状（BPSD）の背景には、その人の生活歴や性格が関係しているため、それらのアセスメントを行い、支援の在り方を考える必要性について説明する。

6 取り上げる言語活動と教材等

(1) 言語活動の内容と指導上の留意点

- ・事例を段落に区切って丁寧に読み、Cさんの『BPSD』の背景にある本当の思いについて考察し、ワークシートにまとめる。
- ・事例を読んで、Cさんの本当の思いを理解した上で、必要だと考えられる支援や環境について、グループで話し合い、内容を確認し合う。
- ・グループで話し合った結果をホワイトボードに適切にまとめ、発表内容が適切かどうかを確認し合う。
- ・適切な態度で、全体に発表する。
- ・各グループの発表を教員が解説することで、認知症の方の支援の在り方について考えを深め、学んだことをワークシートにまとめる。

(2) 教材（ワークシート）

課題 次の文を読んで、介護職員のCさんへの支援について考えよう。

- 【1】Cさんは86歳の女性で、夫と二人暮らしである。ある時から、孫の名前や家への道順を忘れるようになったため、病院を受診し、アルツハイマー型認知症と診断された。その後、デイサービスに通うようになり、明るく面倒見のよいCさんは生き生きしていた。
- 【2】ところが家では、同じものを何度も買ってきたり、鍋を火にかけたまま忘れるなど家事に支障が出てきたため、夫が家事をするようになった。そうすると、失禁もはじまり、日常生活に支障が出るようになった。夫も介護疲れで体調を崩し、Cさんは特別養護老人ホームに入所することになった。
- 【3】施設での新しい生活が始まって、混乱もなくにこにこしていた。しかし、しばらくすると、廊下をあてもなく歩いたり、他の入居者の部屋に入って、そこに、あるものを自分の部屋やほかの場所に持って行くようになった。Cさんは相変わらずにこにこしていて、介護職員も不可解で困っていた。
- 【4】介護職員はCさんの気持ちを考えることから始めた。行動を注意深く観察すると、Cさんは廊下をうろろろしながら「あの子のところへ行ってあげないと。」とか「片づけといてあげよう。」とか独り言を言いながら歩いていた。生活歴をみると、Cさんは長年主婦として夫や子どもの世話をしていた。そんなCさんにとって当たり前の生活とは【 ① 】である。Cさんの行動は生活歴と性格が関係していると考えられる。また認知症の中核症状が関係して【 ② 】という状態になっており、子育てをしていた頃にもどって、不安と混乱の中で【 ③ 】と思っていると推察できる。

1 【 ① 】に該当する文を考えよう。 **家事や家族の世話をすること。**

2 【 ② 】に該当する文を考えよう。

今がいつなのか、自分がどこにいるのかわからない。人のものと自分のものの区別が付かない。

3 Cさんの「思い」はどのようなものだろう、【 ② 】に該当する文を考えよう。

家事をして誰かの役に立ちたい。

4 Cさんへの支援として、どのようなことが考えられるか書こう。

**本人に確認し、洗濯物の片づけを一緒に行っていただく。
どんな家事が得意だったか聞いて、教えてもらったり、手伝ってもらおう。
料理は無理でも、よそったり、配膳したりすることを一緒に行っていただく。**

(3) 言語活動から学ぶこと

認知症ある人の行動・心理症状(BPSD)への支援については、生活歴や性格を理解し、行動の意味を考えたうえで、環境への配慮や対応について考える必要がある。事例を通してCさんの思いを推察することで、内的世界をどのように理解するか把握し、また、具体的な支援内容の話し合いや発表を通じて、支援の在り方について考察を深めることができる。最後に、認知症の方の内的世界の理解の意義について、話し合いの内容から確認する。

教科名(こころとからだの理解) 事例の内容(精神障害者の生活上の困難)

【学習活動の概要】

1 単元名 「生活機能障害の理解」(障害の理解)						
2 単元の目標 生活機能障害を引き起こす主な要因や疾患について基礎的な知識を身に付け、それぞれの生活機能障害の特性や生活支援の在り方について学ぶ。						
3 単元の評価規準						
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		知識・理解		
障害が日常生活に及ぼす影響について気付いたことを適切にまとめる態度を身に付けている。		障害者の生活支援の在り方について考察したことを適切にまとめ、表現する力を身に付けている。		障害の概要及び障害者の生活等について、基礎的な知識を身に付けている。		
4 単元の指導計画						
第一次 身体障害……………14時間						
第二次 精神障害……………2時間(本時は2/2時間目)						
第三次 知的障害……………2時間						
第四次 発達障害……………2時間						
第五次 高次脳機能障害……………3時間						
第六次 難病……………2時間						
次 程	ねらい・学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第 二 次 (2 時 間)	精神障害 【ねらい】精神障害の基礎的な知識を身に付け、生活上の課題と支援の在り方を学ぶ。					
	■ 精神障害及び精神障害者の現状と生活課題、支援の在り方について理解している。	●				● ・統合失調症等の生活課題、支援の在り方について基礎的な知識を身に付けている。 【定期考査】
	■ 事例を通して、精神障害の特徴や心理に関心を持っている。	●				● ・統合失調症等の特徴や心理について気付いたことを適切にまとめている。 【ワークシート】
	■ 事例を通して、精神障害者の生活支援の在り方について考察し、グループで検討したことを適切にまとめている。	●				● ・統合失調症等の生活課題や支援の在り方について、適切にまとめている。 【ワークシート】

5 本時の指導計画

	学習内容	学習活動（生徒の活動）	指導の留意点*支援 （教師の活動）
導入 5分	統合失調症の生活課題, 支援の在り方についてについて学ぼう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の学習内容の確認 ・今回の学習内容の流れと動機づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症は内因性の精神疾患であり, 入院患者数は半数以上を占めていることを確認する。 ・統合失調症に関する事例を読んで, 症状について理解し, どのような支援が必要とされるか考えることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指名し, 発表するよう促す。 ・本時の目的と流れを説明する。
展 開 40分	【課題】事例から, 統合失調症の症状と生活課題について学ぼう。【知識・理解】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・事例から, 統合失調症の陽性症状と陰性症状について学ぶ。 ・事例をもとに, 生活課題について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例及びスライドを確認しながら, 統合失調症の症状と生活課題について, ラインを引き, ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを使って説明を行う。
	【課題】事例から, Aさんの自立生活に必要なことはなにか考えよう。【思考・判断・表現】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんに必要な支援や環境について意見を持ち, グループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を持ち, グループに分かれ, リーダーを中心に話し合いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視を行い, 必要があれば助言する。
	【課題】グループの発表から, 統合失調症のある人への支援の在り方を学ぼう。【思考・判断・表現】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで発表の準備を行う。 ・各グループの発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者や発表内容を確認し, 黒板に書く。 ・グループの代表者が発表を行い, 必要があれば質疑応答を行う。発表を聴く時は記録しながら聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの様子を観察し, 必要な助言を書く。 ・発表を聴く姿勢になっているか留意し, 発表を進行する。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習で学んだことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害のある人の自立生活に必要な環境や支援を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表内容について整理する。 ・事例を通して, 統合失調症のある人が地域で自立生活を行うために必要な環境や支援について考えることで, 治療やリハビリテーションはもちろん, 安心できる居場所や楽しみや仲間づくりにつながる活動等が不可欠であることを説明する。

6 取り上げる言語活動と教材等

(1) 言語活動の内容及び指導上の留意点

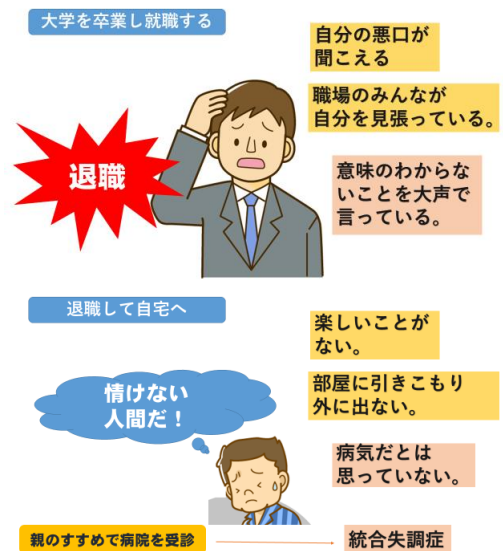
- ・事例を段落に区切り、丁寧に読んでいき、ポイントとなるところにアンダーラインを引く。
- ・統合失調症の症状について、事例を視覚化することで理解を促し、具体的にイメージできるように留意している。
- ・事例から、統合失調症の症状や生活上の課題を把握し、ワークシートに適切にまとめる。
- ・Aさんの自立生活について、自分の意見をまとめた上で、グループで話し合い、考えを発展させる。
- ・グループで話し合った結果を適切にまとめ、発表内容が適切かどうかを確認し合う。
- ・適切な態度で、ポイントを押さえて全体に発表する。
- ・グループの発表を教員が解説することで、統合失調症の支援の在り方について考えを深め、学んだことをワークシートに追加する。

(2) ワークシート（教材）

課題 統合失調症について、事例を通して理解しよう。

《事例》Aさん（34歳・男性）：統合失調症

- ①高校3年生の頃から人の目が気になるということがあった。大学を卒業して就職をしたが、自分の悪口が聞こえたり、職場のみんなが自分を見張っていると思うようになり、突然意味の分からないことを大声で言うなどの症状が出てきたため、退職した。
- ②退職後、自宅へ帰ってからは、楽しいことがなくなり、部屋に引きこもり全く外に出なくなった。病気だとは思わず、自分のことを何もできない情けない人間だと思っていた。
- ③30歳なったころ親のすすめで病院を受診し、統合失調症の診断を受け、薬を服用するようになった。
- ④Aさんは、自宅を出て、自立した生活を送りたいと考えている。



1 統合失調症の症状について、事例からわかることをまとめよう。

人の目が気になる 自分の悪口が聞こえる 見張られていると思う
意味のわからないことを言う 楽しいことがない 引きこもる 自分を情けなく思う

- ① (青年) 期に発病した
- ① 陽性症状・・・ (幻覚) や (妄想)
- ② 陰性症状・・・ (感情) の平板化、自閉、 (意欲) の欠如

2 ①・②より、Aさんの生活上の課題について、考えられることをかこう。

仕事に行けない
人と関われない 地域に出て行けない

3 ③より、今後のAさんの自立生活に必要なことについて、グループでまとめよう。

フットサルなどのスポーツやサークル活動の場
グループホームや作業所などの施設
精神障害者の雇用 (アルバイトや就職)

(3) 言語活動から学ぶこと

統合失調症について考察の基盤となる知識について事例を通して学び、統合失調症のある人の生活支援の在り方についての話し合い活動や発表に向けてのまとめを行うことで、考察を深めることができると考える。

【学習活動の概要】

- 1 単元名
「障害と地域生活支援」(障害の理解)
- 2 単元の目標
障害者の地域生活を支援するために、多領域の専門職のチームアプローチが必要とされていることを学ぶ。障害児・者の家族への支援の意義と在り方を学ぶ。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
障害児・者の家族のおかれている状況に関心を持ち、意欲的に学ぶ態度を身に付けている。	障害児・者の家族が必要とする支援や環境について適切に考察し、表現する力を身に付けている。相談支援員に関して、理解した内容を適切にまとめる力を身に付けている。	相談支援事業、相談支援員、相談支援センター、協議会の役割、家族への支援の在り方に関する基礎的な知識を身に付け、それぞれの意義を理解している。

- 4 単元の指導計画
- 第一次 地域におけるサポート体制……2時間
- 第二次 家族への支援……2時間(本時は2/2時間目)

次 程	ねらい・学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第 二 次 (2 時 間)	家族への支援 【ねらい】障害児・者の家族への支援の在り方を理解する。					
	■ 障害児・者の家族の支援の内容について理解している。 ■ 事例を通して、障害児・者の家族の状況や心理に関心を持ち、理解を深めている。 ■ 事例を通して、障害児・者の家族が必要としている支援や環境について考えたうえで、グループで検討し考えを深めている。	●	●			● ・障害児・者の家族の支援の内容について基礎的な知識を身に付けている。 【定期考査】 ・障害児・者の家族の状況や心理について適切にまとめている。 【ワークシート】 ・障害児・者の家族の支援の在り方について考察し、検討した内容をワークシートにまとめている。 【ワークシート】

5 本時の指導計画

	学習内容	学習活動（生徒の活動）	指導の留意点*支援 （教師の活動）
導入 10分	教科書の事例について,前回の授業で学んだことを振り返ろう		
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の学習内容の確認 ・今回の学習内容の流れと動機づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・隅野由子さんの家族にはどのような困難があったか、また、どのように向き合ってきたかを想起する。 ・隅野由子さんの作品を鑑賞し、由子さんの思いに触れ、家族との関係について関心を高め、家族支援の大切さに気付く。 ・家族の支援の在り方についてグループで考えて発表することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両親は様々な困難を感じながらも、一生懸命に考え行動してきたことを確認する。 ・PPTで資料を示しながら説明する。 ・由子さんが家族の深い愛情を感じながら成長したことを確認する。 ・本時の流れを説明する。
展 開 35分	【課題】事例から、障害のある子どもの家族の支えについて、グループで話し合おう。 【思考・判断・表現】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・事例から、由子さんの両親の支えになっていたことをグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれ、リーダーを中心にホワイトボードを活用した話し合いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの様子を観察し、必要な助言を行う。
	【課題】事例から、障害のある子どもの家族に必要な支援や環境について、グループで話し合おう。 【思考・判断・表現】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・事例から、由子さんの両親に必要な支援や環境についてグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれ、リーダーを中心にホワイトボードを活用した話し合いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの様子を観察し、必要な助言を行う。
	【課題】グループの発表から、障害児・者の家族への支援の在り方を学ぼう。 【思考・判断・表現】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで発表の準備を行う。 ・各グループの発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの課題について発表者や発表内容を確認する。 ・それぞれのグループが時間内で発表を行い、必要があれば質疑応答を行う。発表を聴く時は記録しながら聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの様子を観察し、必要な助言を行う。 ・発表を聴く姿勢になっているか留意し、PPTで資料を示しながら発表を進行する。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動で学んだことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表から、フォーマル又はインフォーマルな様々な家族に対する支援が考えられることを確認する。 ・家族への支援は、家族自身にとっても、障害者の環境因子としても重要であることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表内容について整理する。 ・インフォーマルな支援の意義について説明する。 ・家族の障害受容は大きなエンパワメントになることから、障害に対する周囲の理解や、支援の充実など、親が希望を持って子どもと向き合う環境が不可欠であることを説明する。

6 取り上げる言語活動と教材等

(1) 言語活動の内容及び指導上の留意点

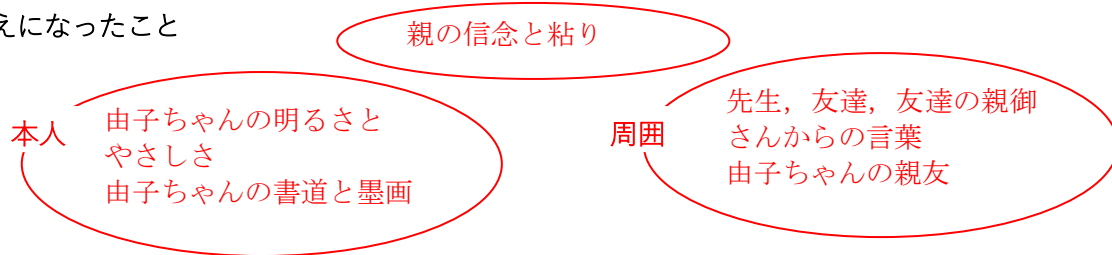
- ・教材「由子ちゃんを育てて」を読んで、両親が由子ちゃんを育てるうえで、支えになったことはなにかについて、4～5人の小グループで話し合い、内容を確認し合う。
- ・教材「由子ちゃんを育てて」を読んで、事例には記載されていないものも含め、必要だと考えられる支援や環境について、4～5人の小グループで話し合い、伝え合うことで考えを発展させる。
- ・各グループで話し合った結果をホワイトボードへ適切にまとめ、発表内容が適切かどうかを確認し合う。
- ・適切な態度で、ポイントを押さえて全体に発表する。
- ・各グループの発表を教員がまとめることで、家族支援の在り方について自己の考えを深める。
- ・家族支援の意義について考察し、学習内容をまとめる。

(2) ワークシート（教材）

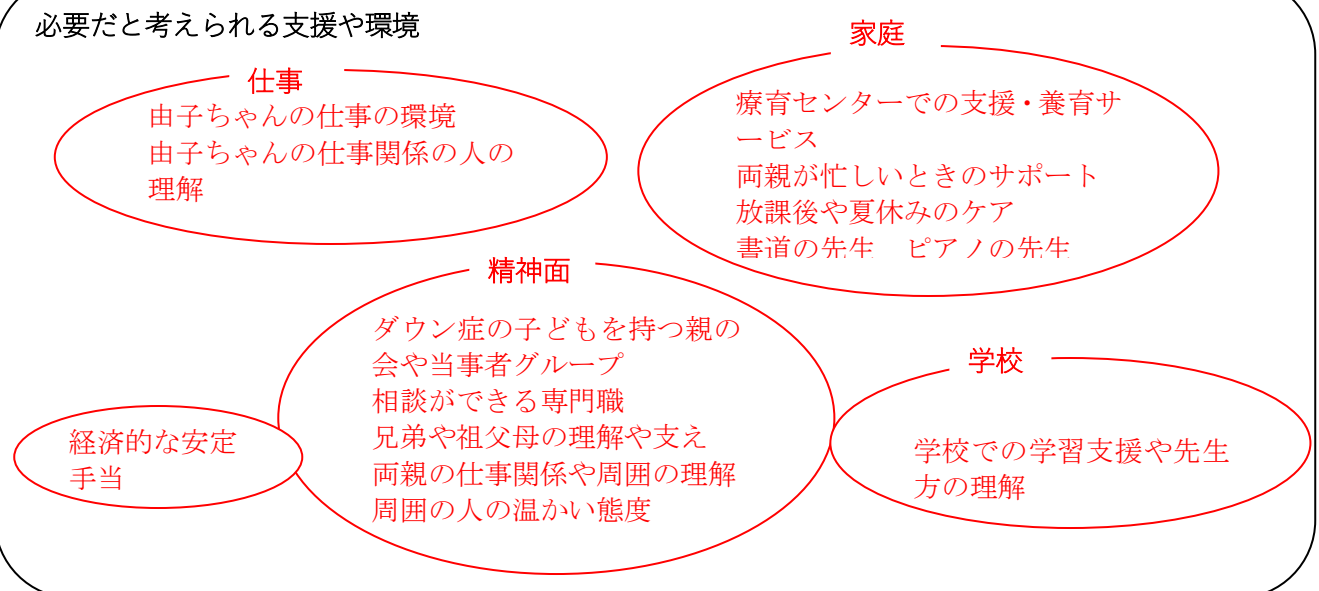
《事例》

課題 「由子ちゃんを育てて」を読んで、両親が由子ちゃんを育てるうえで、①支えになったことはなにか、また、②事例には記載されていないものも含め、必要だと考えられる支援や環境をまとめてみよう

支えになったこと



必要だと考えられる支援や環境



(3) 言語活動から学ぶこと

家族を支援するための制度やサービスの紹介にならないよう、事例をもとに家族支援の意義や重要性に気付くような授業展開とした。由子さんの人柄等を紹介することで共感を持って、取り組めるよう留意した。